

2018年度 第19回 県民登山報告書

主催：山形県山岳連盟

主管：八幡山岳会

期日：2018年9月15日（土）～16日（日）

山名及びコース：鳥海山「吹浦口～鳥海湖～千畳ヶ原～幸治郎沢～滝ノ小屋～湯ノ台口」

参加者：21名「内訳 県山岳連盟関係者 17名 一般参加者 4名」

コースタイム： 8：43 吹浦口（大平口）⇒9：23見晴し ⇒10：47 吹浦口・河原宿
⇒11：10 長坂道出合 ⇒11：30 鳥海湖南部 昼食（30分）⇒
⇒12：40 千畳ヶ原・T字分岐 ⇒13：05 幸治郎沢下部 ⇒
⇒13：50 幸治郎沢上部 ⇒14：35 湯ノ台口・河原宿⇒
⇒16：00 滝ノ小屋 ⇒16：30 湯ノ台口車道終点

【総括】

参加者は9月15日（土）午前7時に酒田市の鳥海高原家族旅行村に集合。

降雨も予想されるすっきりしない曇天の中、県内各地から応募があった9名の岳連関係者と4名の山愛好家、そして地元八幡山岳会8名の総勢21名で遊佐町の平口に移動し、8時43分に登山を開始した。最初の急な階段から続く伝石坂は蒸し暑いコンディションの中、ゆっくりと且つ賑やかに歩を進める。途中眼下に日本海や飛鳥を望むポイントでは一層賑やかになる。

長い伝石坂を上り最初の休憩地「見晴し」に到着。一汗かいたためか衣類の調整を行う参加者。ここは、名前のとおり庄内平野や山形県から秋田県南部の海岸線、男鹿半島まで一望できた。

その後、参加者の登山靴のソールにトラブルが発生したため、急遽修理の講習会となり、良い体験となった。ちなみに応急修理された靴は下山まで無事山行に耐えることができた。

標高を上げようやく鳥海山頂上が望めるようになる。河原宿周辺は黄色い花が咲き誇っているように見えるが、これはイワイチョウの葉の紅葉である。木道を少し上ると長坂道との分岐で休憩し、山形県山岳連盟の旗とともに記念撮影。このあたりは本日の行程の最高地点である。木道を鳥海湖を眺めながら下っていく。鳥海湖の南側分岐の登山道沿いで昼食となった。南側には月山や月山森、これから進む千畳ヶ原、幸治郎沢を望む。心配された天気は、上空の雲がとれ青空が望めるようになってきた。

昼食後出発するが、相変わらずのローペースと賑やかさは健在で参加者の中には「晴一れたそら一」と歌いだす者も。実に愉快的なメンバーである。

途中、妙齢の女性3人とすれ違う。聞けば湯ノ台口から幸治郎沢を下り、これから鳥海湖まで行って、戻ってくるとのこと。皆その健脚ぶりに驚く。

千畳ヶ原の草紅葉は色づき始めだが、周りの緑や黄緑などと相まっていい雰囲気参加者の皆さんも満足気である。約1時間の木道歩きで幸治郎沢の取り付けに到着。標高差約100メートル急登の沢上り開始。初めての参加者は不安を隠せないようだ。沢と言っても水は無く、大きな岩の連続でルート選定に気を使う。途中休憩を入れながら全員無事に登ることができた。上部か

らの鍋森や扇子森、外輪山、千畳ヶ原の眺めに一同感無量の様子。

月山森からの木道を経て河原宿で休憩となり、ここでも山形県山岳連盟の旗を中心に外輪山をバックに記念撮影。後は下るだけ。

帰路、相変わらずのスローペースに加え疲れから休憩も多くなったが、最後まで賑やかな山行だった。滝ノ小屋を経て午後4時30分無事全員車道終点到着。お疲れさまでした。

その後宿泊地である旅行村集合型ケビンに戻り、おのおの近くの湯の台温泉鳥海山荘で入浴し、午後6時から旅行村レストランで夕食となった。

翌日はレストランで朝食後来年の再会を誓って解散となった。

以上



湯ノ台コース 河原宿にて